

違法DLとP2Pの今後の課題

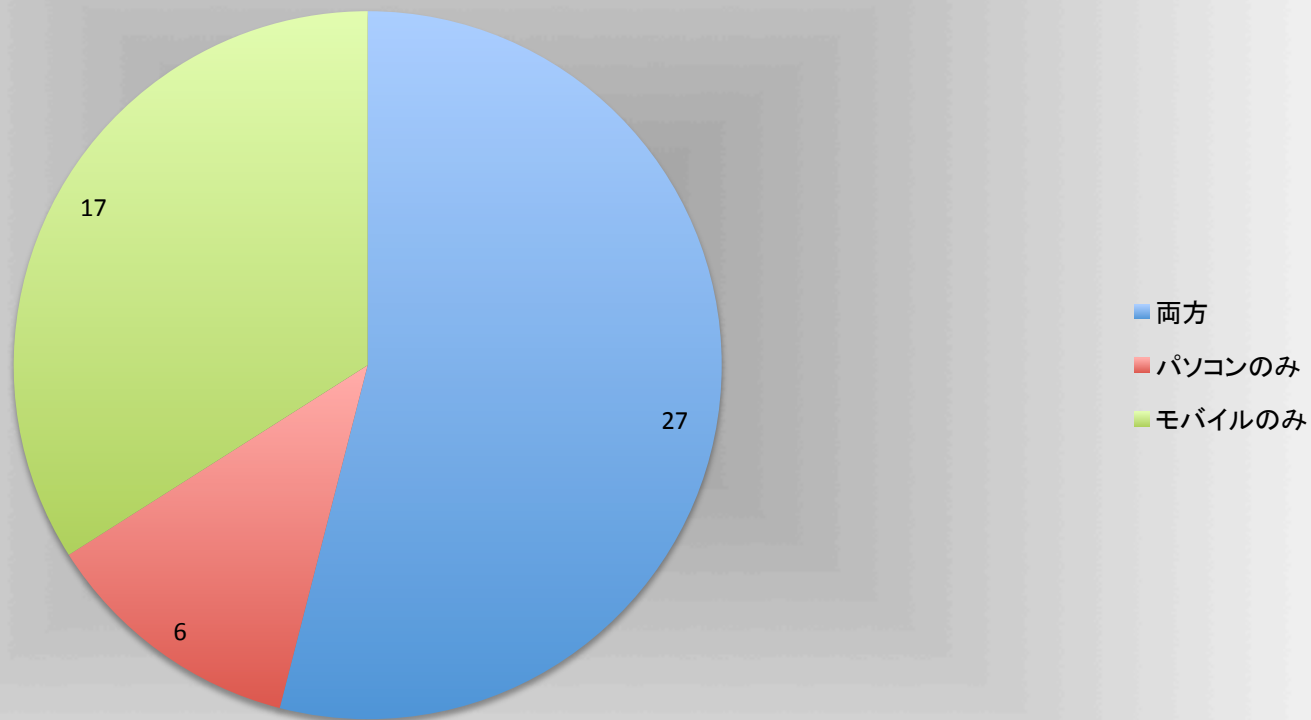
21111232 鳥海勇貴

本研究の目的と仮説

- 多摩大学の学生50名にアンケートを取り、インターネット上で著作権の侵害をしてしまっている学生がどれだけいるのかを調査した。

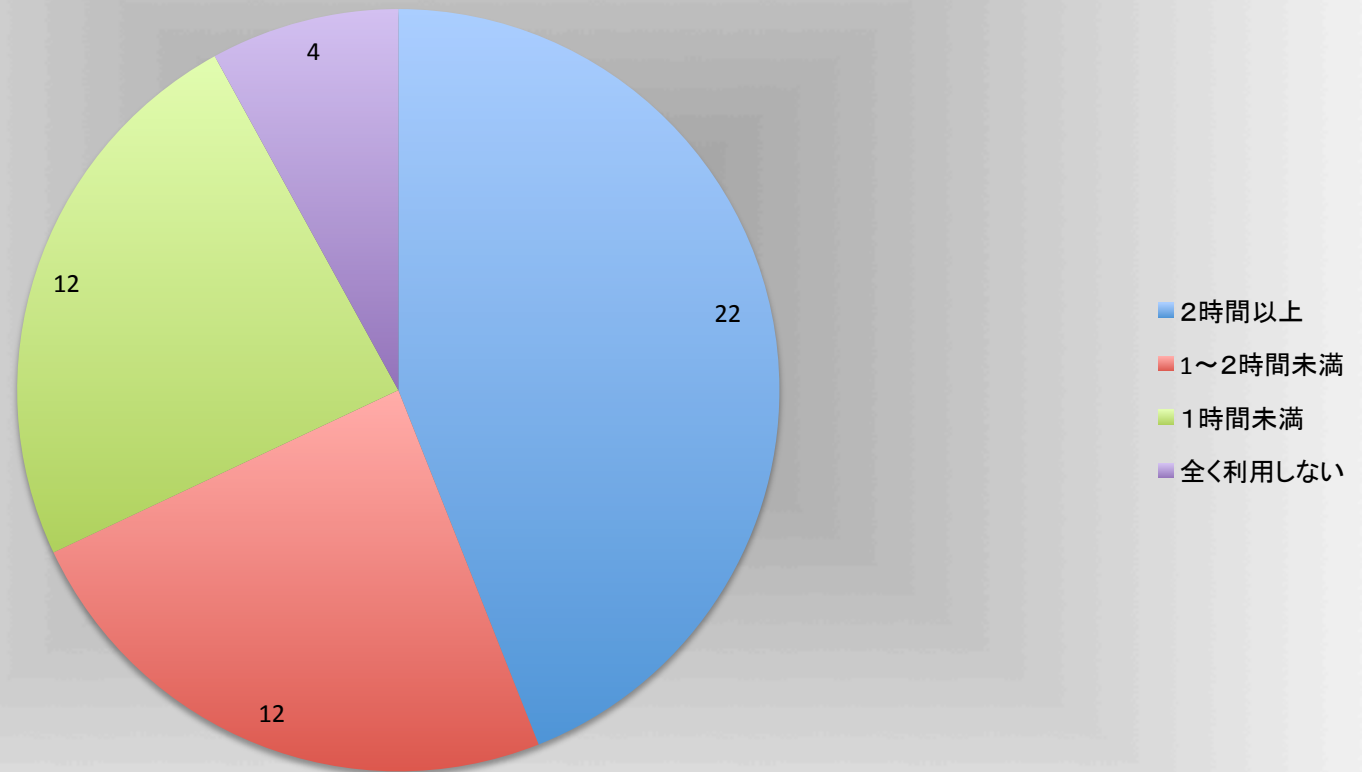
私はメディアの協力(ニュースにて逮捕者数を放送、広告活動に力を入れる)によって違法ダウンロードを減らす事が出来ると考える。

インターネットを普段利用するデバイス



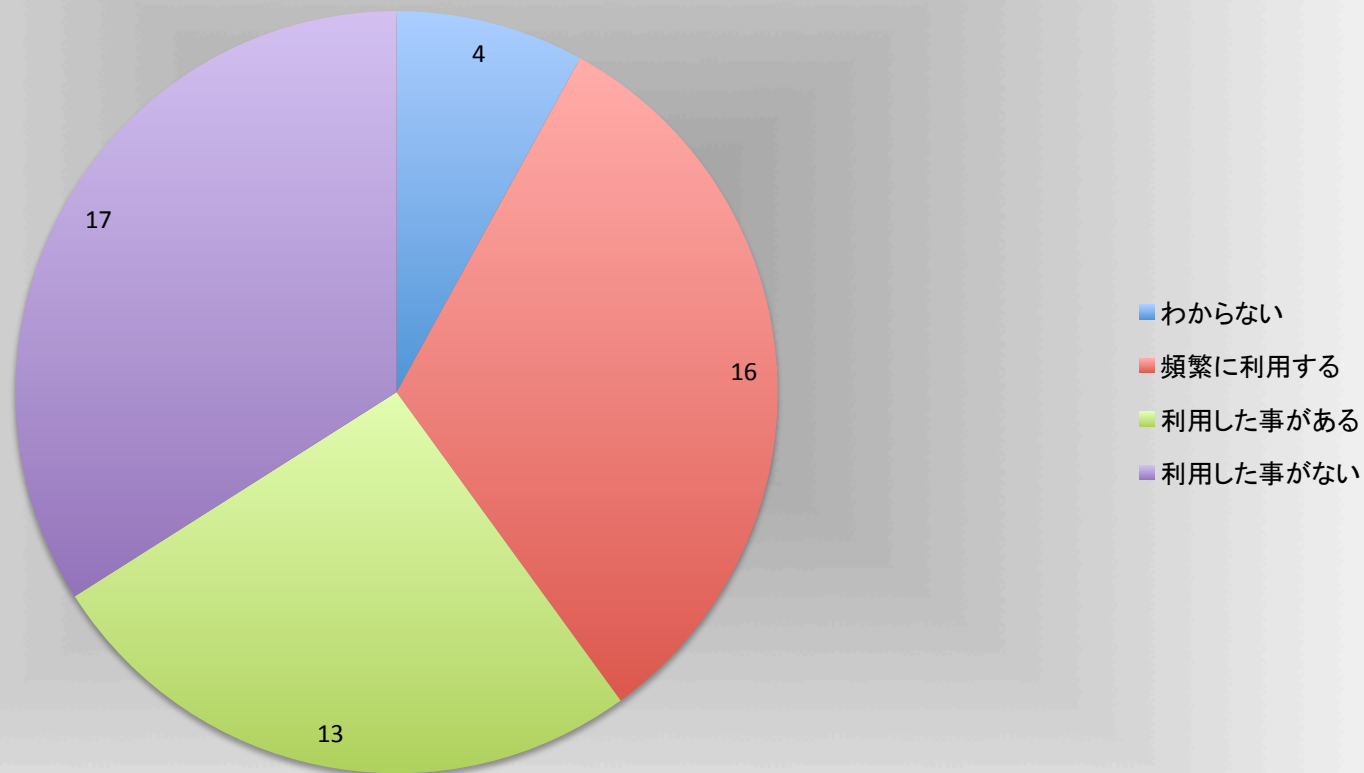
両方54% パソコンのみ12% モバイルのみ34%

パソコンの利用時間



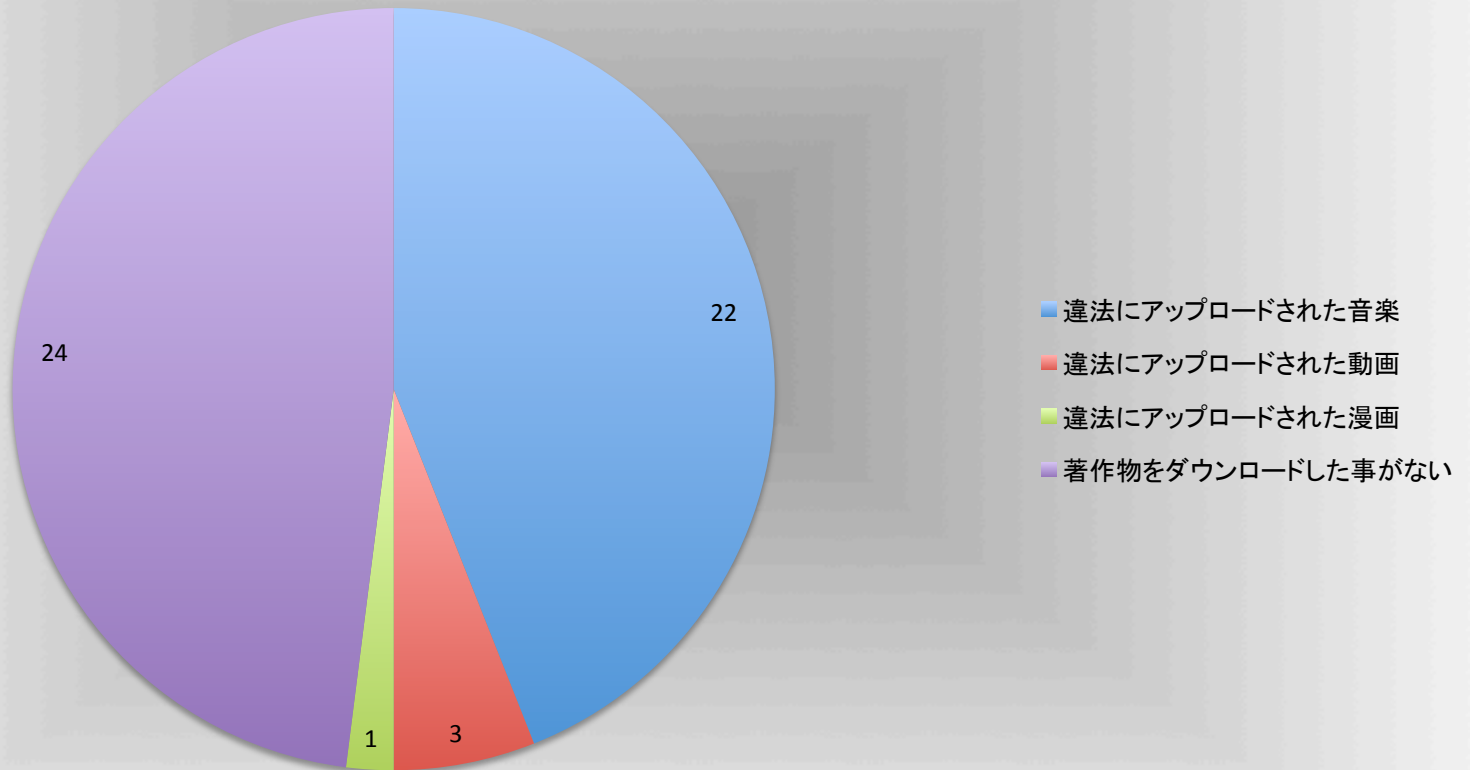
2時間以上44% 1~2時間未満24% 1時間未満24% 全く利用しない8%

P2Pの 利用経験



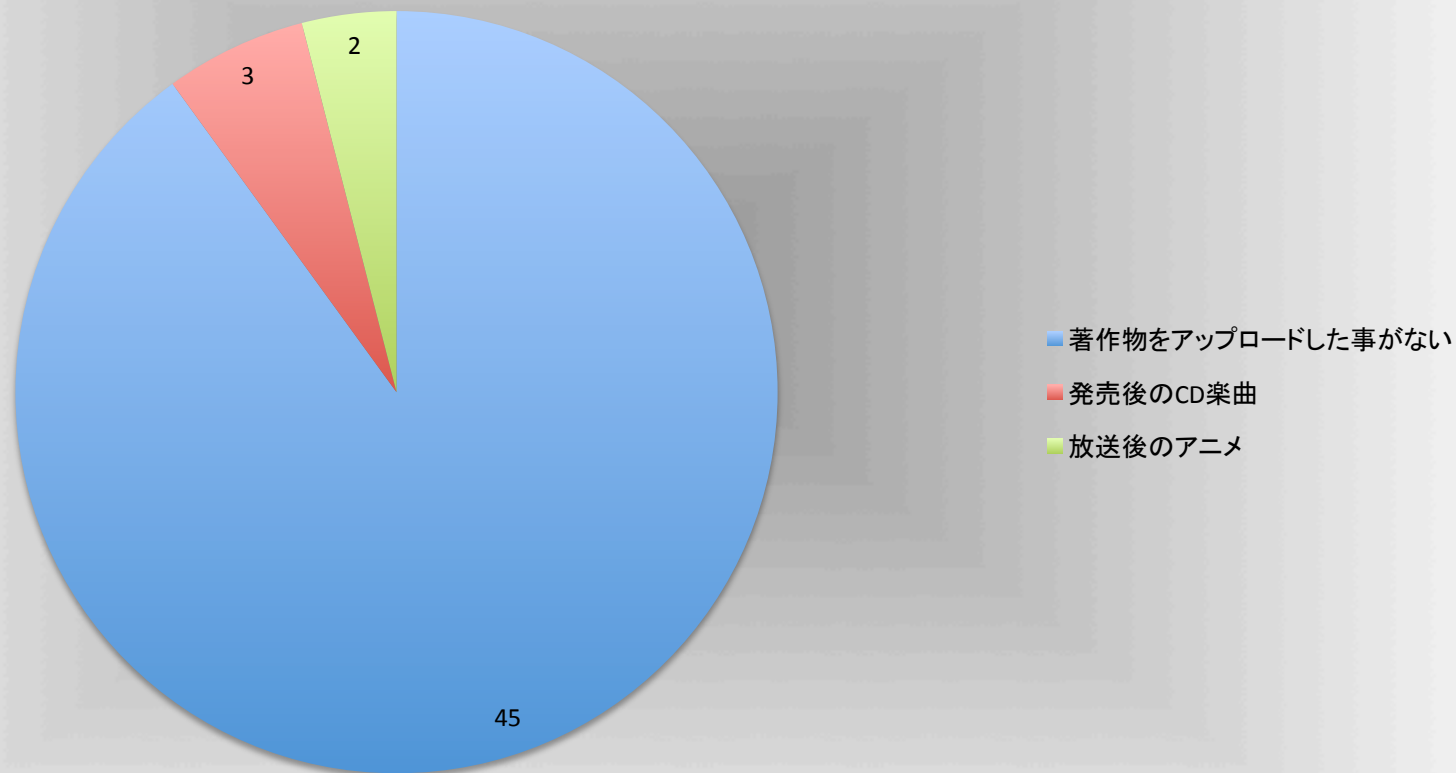
利用した事がない34% 頻繁に利用する32% 利用した事がある26% わからない8%

P2Pを通してダウンロードされている ファイル



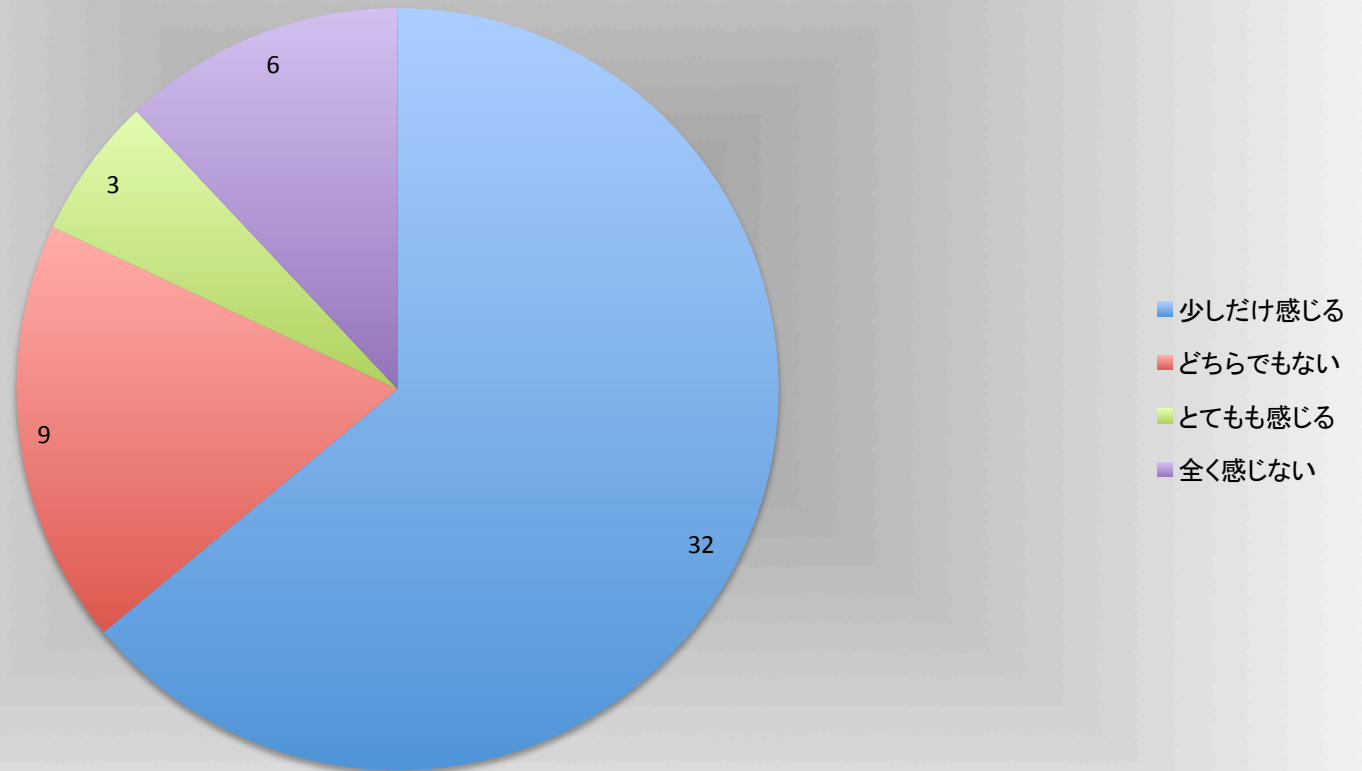
著作物をダウンロードしたことがない48% 違法にアップロードされた音楽44%
違法にアップロードされた動画6% 違法にアップロードされた漫画2%

著作物のアップロード



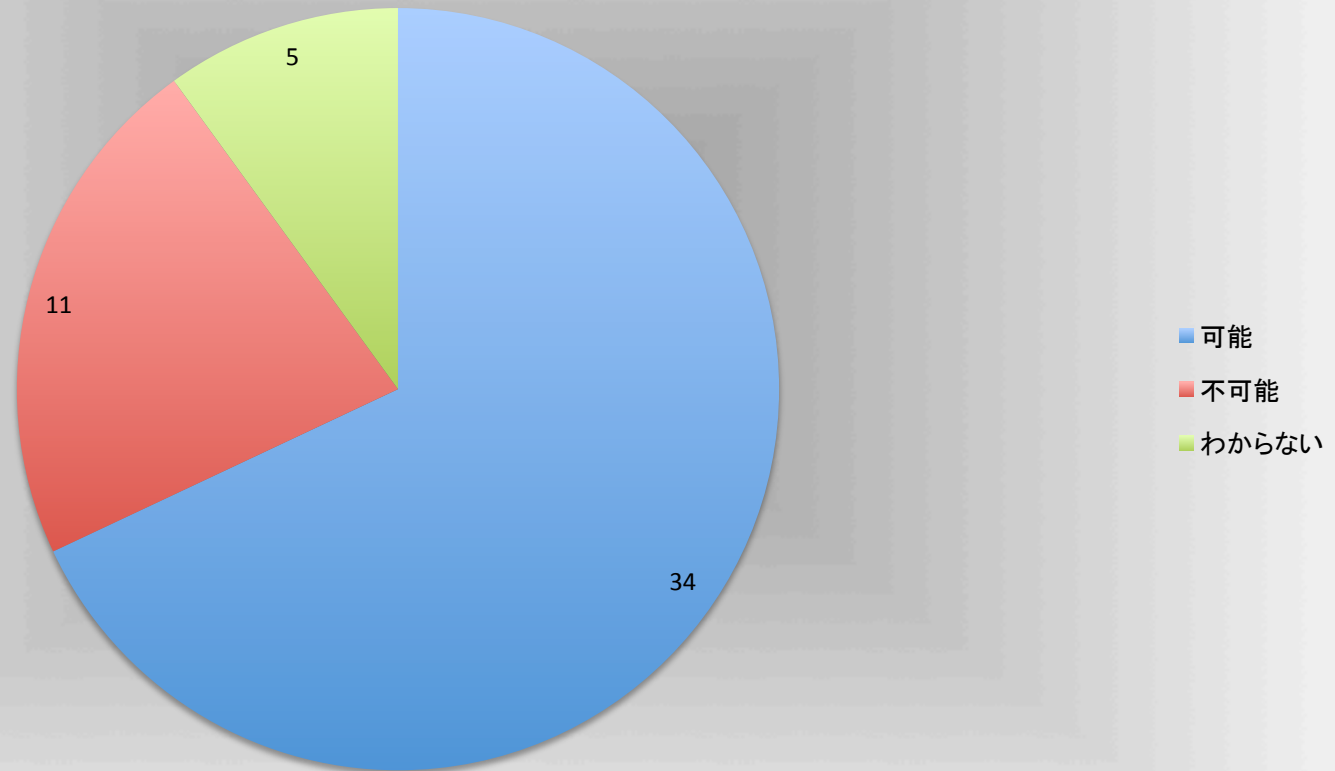
著作物をアップロードした事がない90% 発売後のCD楽曲6% 放送後のアニメ4%

違法ダウンロードに後ろめたさを感じるか



少しだけ64% どちらでもない18% 全く感じない12% とても感じる6%

メディアの協力によって違法ダウンロードを無くす事が出来るか



可能68% 不可能22% わからない10%

結論

- 32%の学生がP2Pを常日頃利用している。
内、違法な楽曲をダウンロードしている学生が44%、著作物にてを出していない学生が48%
半数近くの学生が著作権を侵害してしまっている事がわかった。